

第17回「斜面防災対策技術フォーラム '14」 in 札幌

標記大会が、2014年10月9日(木)～10日(金)に、京王プラザホテル札幌で300名以上の方々の参加で開かれました。発表者は3会場、合計33件でした。



開会の挨拶をする奥山和彦会長（斜面防災対策技術協会：奥山ボーリング）



挨拶する高井 修氏（北海道副知事）



講演する南 哲行氏（北大特任教授，元国土交通省砂防部長）

開会式の後、北海道大学大学院農学研究院国土保全研究室・特任教授の南 哲行（みなみ・のりゆき）氏の「国土を保全する」と題した特別講演が行われました。

日本では、国土面積の10%の洪水氾濫地域(沖積平野)に約50%の人々が住み、約75%の資産が集中しています。国土保全という場合、人がまばらな地域を含めた全体を保全する必要があります。

例えば、ここ数年多発している土石流災害でも、危険区域を指定して様々な対策を行ってきましたが、土石流の発生源である山地に対する対策は十分とは言えません。さらに、これからの日本の人口構成は、ペン先型とも言える極端な逆ピラミッド型になります。そのことを考えると、少しずつでもハード対策を進め、それにソフト対策を加味する必要があります。

これからの取り組みとしては、「地域に根ざした砂防施設の継承」が重要になります。

例えば、長野県上水内郡小川村の薬師沢では、第25代砂防惣代（2005年時点）を中心に砂防施設の保全を行っています（下記ウェブサイト参照）。

(http://www.pref.nagano.lg.jp/dojirisabo/link/documents/yakusizawa_1.pdf)

また、鹿児島市の東桜島小学校には「住民ハ理論ニ信頼セズ」と書かれた「桜島爆発記念碑」（1914年の噴火）があります。この碑は、住民自らが考え行動する重要性を教えています。

特別講演の後には、3会場で技術発表会が行われました。今回のフォーラムの副題は「若い技術者のために」です。発表は、できるだけ若い人が行うこと、発表者が逆に会場の人たちに質問して疑問に思っていることに回答をもらうというユニークな発表でした。さらに、閉会の前に発表者に対して優秀賞と最優秀賞（いずれも副賞付き）が授与されました。



発表風景



優秀発表者の表彰

特別討論「北海道の融雪災害について」が行われました。パネリストは、坪山厚実氏（実

行委員会副委員長：明治コンサルタント), 高田一徳氏 (実行委員：シン技術コンサル), 小野由紀光氏 (実行委員：国土防災技術北海道) で、小沼忠久氏 (実行委員長：国土防災技術北海道) が進行役を務めました。



会員企業の展示会場の様子



閉会の挨拶をする小沼忠久実行委員長

10月10日(金)は、見学会が行われました。小樽の北海道ワイン工場を見学した後、道々小樽定山溪線を通り、朝里ダム、融雪災害現場を見学しました。定山溪ダム、豊平峡ダム、平成24年に発生した国道230号の融雪災害現場を見て札幌に戻りました。